

内容

- ・大きなテーマは災害等が起きた現場で聞こえない人と一緒にいた場合、実際どういうことが必要になるのかを
実体験すること。
- ・実際の旭川市内の街中を想定するシナリオをきちんと作った上で、それぞれのグループに課題を出していく。意見交換会という性質を考えると、シミュレーション的なものになるかと思うが、最近では実際に外に出て災害を想定した避難訓練を行っている地域もある。避難場所は分かっているのに普段通っている道が災害時には通れない、避難所を間違える等が実際に起きている。それを体育館で経験するのは難しいが、道を間違っていることに気づき一旦止めてろう者に案内する等、ろう者への伝え方等を実際の状況にできるだけ近い形で体験できたら良い。
- ・昨年度は講演を聞いてから意見交換会を行っていたが、今年度は意見交換会を行ってから講演を聞く方法にすると良い。体験を通して自分の気づきを得た上で講演を聞くとより効果的。
- ・ワークショップは、実際にろう者がたくさんいて、そこに聞こえる人が少数いたときにどう不安を感じるかを体験してもらうのが理想。例えば避難所を作り、放送が流れたとき、どうやってろう者に伝えるか、支援するのかをやってみると良い。場所は体育館だけではなく、例えばおびつた全館を使って、それぞれで別れて経験した後、体育館に集まり、どうだったかお互いの話を聞いて、最後に全体で講演を聞くという流れが良い。
- ・スタート地点は外に出た駐車場あたりにしてみても良いし、おびつたの待合所を設定しても構わない。ちょっと違った場所から皆で体育館まで避難するという経験ができれば、全館借りなくても可能。場所が設定できれば良い。
- ・今年度は体験する前に、ぜひ手話を少し参加者に教えてほしい。手話を使って体験できたらそれもまた経験になる。参加者全員が体験するとなると客観的に見る人がいないため、10人以下のグループで、最初は外から見人、実際に体験する人と分かれて最後に振り返りのような意見交換ができれば良い。あとはおびつた内で災害発生箇所、避難所、店舗等を設定し、各箇所に人員を配置し、その中でやってみても良い。

その他

- ・おびつたの会議室1は狭かった。もっと広い場所でやりたい。
- ・1グループ15人は多い。せめて10人。
- ・親子参加もあれば良い。これまで子どもの参加はなかったため、意見交換会という名前に工夫が必要。
- ・土曜日にも仕事がある人が結構いる。日曜日の方が参加者が集まりやすい。